

科目名	多文化共生の現場を歩く
担当者名	長坂香織

<b>【授業の目的】</b>
多文化共生に関わる現場に足を運び、実際に見て、その現場の方の話を聴くことを通して、多文化共生の現状と課題を肌で感じ、理解する。また、それらの課題解決に向けた現場の対処について学び、多文化共生を自分事として考える姿勢を身につける。
<b>【授業の方法】</b>
本講義では、異なる文化を持つ外国人との共生に向けた取り組みを行っている現場の視察研修をとおり、現状と課題および現場の対応を直に学び、その学びを通して課題解決の方法について考えます。 事前課題：多文化共生対応人材育成プログラム共通 アクティブラーニング：第1回目意見交換／第8回目発表・意見交換 第2回目～第7回目については現場視察であり、各現場担当者との質疑応答、意見交換、その後の振り返りを含む。
<b>【受講に際して・学生へのメッセージ】</b>
到達目標には設定してありませんが、日常ではあまり出会うことのない、見えない存在である外国人住民の仕事の現場、生活の現場を視察研修することとおして、同じ人間として共感し、受容することの重要性を理解できると嬉しいです。自分の中にある偏見にも気づくことができると良いですね！さあ、あなたの見たことのない世界と一緒に歩いてみませんか？
<b>【テキスト】</b>
なし
<b>【参考書】</b>
移住労働者と連帯する全国ネットワーク(編)(2009). 多民族・多文化共生社会のこれから(現代人文社・大学図書). 総務省(2021). 多文化共生事例集(令和3年度版). <a href="https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/tabunkakyousei_suishin_r03.html">https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/tabunkakyousei_suishin_r03.html</a> 近藤敦(編著)(2011). 多文化共生政策へのアプローチ(明石書店). 近藤敦(編著)(2015). 外国人権へのアプローチ(明石書店). その他、随時、指示する。
<b>【授業計画の概要】</b>
第1回 (8/9(金)) オリエンテーション、多文化共生に関するプレディスカッション 県内、県外訪問予定および訪問先に関する説明／多文化共生の現状に関する意見交換をする (事前・事後学習) 授業後に振り返りを提出
第2回 (8/20(火)) バスによる県内研修(1日) (第2回から第4回は同日) 製造業、教育機関をはじめとした、多文化共生の現場および活動の視察研修 (事前・事後学習) 訪問先について情報収集する 授業後に振り返りを提出
第3回 (8/20(火)) バスによる県内研修(1日) ※第2回に引き続き実施 (事前・事後学習) 訪問先について情報収集する 授業後に振り返りを提出
第4回 (8/20(火)) バスによる県内研修(1日) ※第3回に引き続き実施 (事前・事後学習) 訪問先について情報収集する 授業後に振り返りを提出

第5回 (8/22(木)) バスによる県外研修 (1日) (第5回、第6回は同日)

- ① JICA横浜海外移住資料館 (神奈川県横浜市中区) 日本人の海外移住の歴史と日本に住む日系人について
- ② 横浜国際交流協会 多文化共生事業
- ③ 外国人在留支援センター「F R E S C」 (東京都新宿区四谷) 国の外国人在留支援について  
(事前・事後学習) 訪問先について情報収集する 授業後に振り返りを提出

第6回 (8/22(木)) バスによる県外研修 (1日)

※第5回に引き続き実施

(事前・事後学習) 訪問先について情報収集する 授業後に振り返りを提出

第7回 指定された県内の現場から、最低1か所を選び視察研修

日本語教室、サードプレイス、小学校などの視察研修

(事前・事後学習) 訪問先について情報収集する 授業後に振り返りを提出

第8回 (9/28(土)) 発表と意見交換 (ディスカッション)、まとめ

発表と意見交換、授業のまとめ

(事前・事後学習) 発表準備 課題レポートの提出

※本科目は、次の時間帯と場所で実施します。

第1回 8/9(金) 18:10~19:40 社会人のみオンライン可

第2回~第4回 8/20(火) 7:40~17:30 県内各施設 (集合・解散場所 山梨県立大学飯田キャンパス)

第5回・第6回 8/22(木) 6:00~19:00 県外各施設 (集合・解散場所 山梨県立大学飯田キャンパス)

第7回 地域の各団体と調整 (交通手段に配慮して、平日、土日を含めた複数の選択肢を設けます)

第8回 9/28(土) 10:40~12:10 社会人のみオンライン可

※バスによる視察研修の際の昼食は各々が負担します。

※ 第7回目の授業については、各自の選択した視察研修の場により必ずしも第7回目になるとは限りません。

#### 【学士基盤力】

A) 教養力：専門分野を超え、文理を問わない幅広い知識を身に付けており、自己学修を継続するための基盤を備えている。

B) 実践力：思考を現実と関連づけながら発展させ、進んで問題を発見し、解決していく姿勢を備えている。

C) 倫理・シティズンシップ力：多様性を理解し責任をもって他者に応答することができ、ローカルからグローバルへと至る社会の重層性を理解し社会の維持と変革に向けた取り組みに参加することができる。

#### 【到達目標】 ( )内は対応する学士基盤力

1) 多文化共生に関わる現場の現状と課題を実感し、理解することができる。(A)

2) 多文化社会の一員として、共生を進めるために必要なことについて考え、自分のことばで表現することができる。(C)

3) 多文化共生を自分事として捉える姿勢を身につける。(B)

#### 【成績評価の方法】 ( )内は対応する到達目標

30%：授業の振り返りにより到達目標の達成度を評価する。(1)

40%：課題レポートにより到達目標の達成度を評価する。(2)

30%：最終発表の内容と授業への参加状況により到達目標の達成度を評価する。(3)

#### 【実務経験のある教員による授業科目の概要】

各現場の担当者の生の声を聞く。教員は多文化共生に関する複数の地域活動(市民団体)に長年携わっている。

#### 【備考】